

子どもも教師も、

「ほかほかした心」でいたいね。

船戸 純子

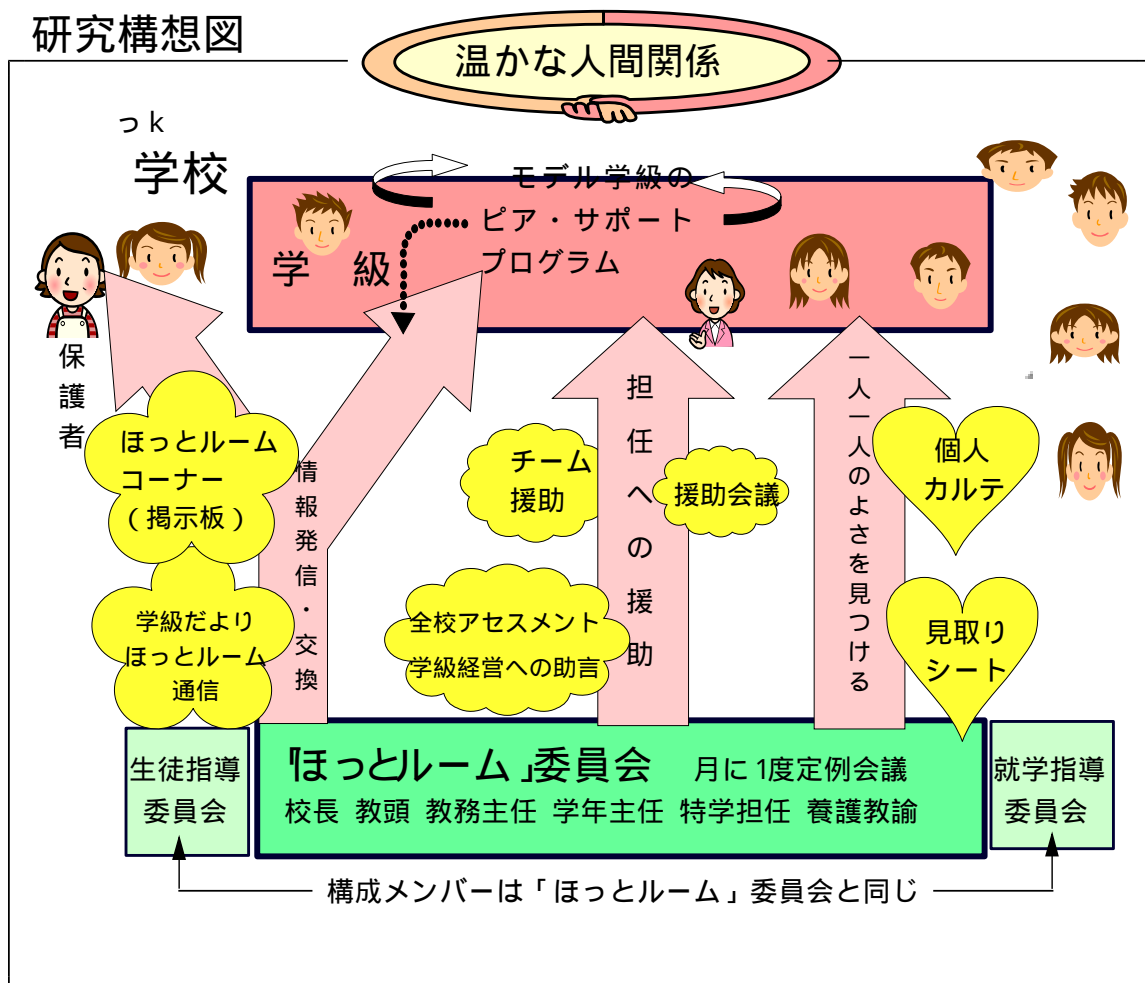
お友達がいないよ。
さびしいなあ。

いつもけんかばかり。
友達なんていないよ。

みんなの悩みに
一人じゃ応えて
あげられない。
つらいなあ。

「ほっとルーム」委員会を
立ち上げました！

研究構想図



「ほっとルーム」3つの機能の活用

教師への援助の場

各学級を開き合って学級経営へアドバイス

協働意識を高める

教育相談研修 予防的・開発的教育相談の推進

不登校傾向児童に対してチーム援助の体制を作る

担任への援助

「ほっとルーム」委員会でのアセスメント



学級経営への援助例

実践の段階で学級間に温度差が生じる。学級経営充実の大切さを共通理解することが必要。

一人一人のよさを見つける場

「個人カルテ」の活用

学級だけで児童を見るのではなく、クラブ活動、委員会活動、学年交流等の場で一人一人の児童を全職員で多面的に見て、よいところを記入する。

児童のよさを見つけ、言葉や文章で表現することの大切さの意識付け

記入する「場」と「時間」の設定やきめ細かな見取りができるような意識付が大事。



個人カルテ収納の様子

見取りシート

活動名 記載者 []

見取りの視点

学年・組	氏名	具体的な活動の様子	記載者

異学年交流やクラブ活動等では、活動中に児童を見取れるように

「見取りシート」を活用する。

情報発信・交換の場

「ほっとルーム」委員会を拠点として学級・学年・異学年交流等の場で温かな人間関係を育成するための工夫や実践を紹介

互いの実践の共有・教育相談の手法を広げる

集団に適応が難しい児童や不登校傾向の児童の情報交換

児童の共通理解を図り、一人一人のよさを見つける場面で生かす。



「ほっとルーム」コーナーの掲示

情報を生かした教師の取組の推進及び保護者や地域への啓発が必要。